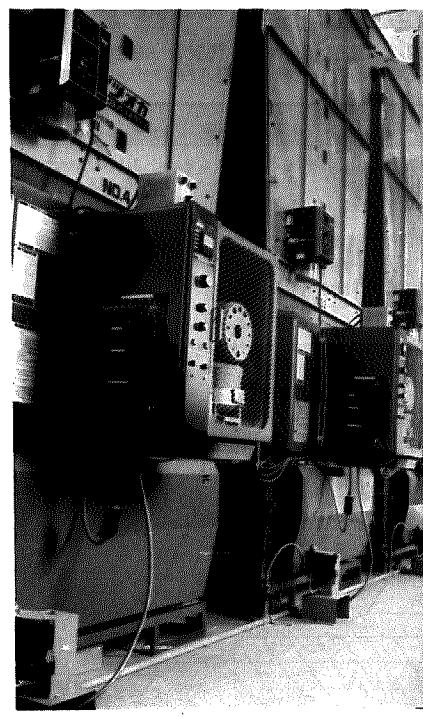




# ライセンタ

## での共同作業

1日1haを刈れる大型コンバイン。トラックにもみは積み込まれセンターに運ばれる。センターの大型乾燥機で乾燥後、もみすり機にかけられ農協に出荷される。この作業は8人でできる。



### 結果的にみますとー

- ① 通常の場合4367万円が見積もられましたが、3891万円ですみ476万円安くなりました。
- ② 農地をつぶさなかったため、土地改良区に決済金(用地8町として40万円)を支払わずに済み、収穫もその分だけ多い。
- ③ 予想より高額。1平方が304円で518平方借りたので約16万円(年間)。これは同面積の農地の地代とほぼ同じですのでメリットはなしです。

### 機械投資は減るが初年度負担大

- 組合を構成する農家は十二戸。水稻の総作付面積は25・4ヘクタールで、目標は28ヘクタールです。ライスセンターには大型乾燥機が四台のほかもみすり機やベルトコンベアなどが備えてあります。利点は何でしょうか。
- ① 機械投資が少くない。500万円のコンバインが2台で1000万円。単独農家ですと、1台180万円のコンバインが12台必要(2160万円)です。乾燥機の場合はほぼ同経費。
- ② 労働力が減少。四番の場合男8人で十分です。交替制で作業しますし、婦人は農作業する必要はありません。けが、病気も心配はなくなりました。

ただがやはり高過ぎる。最初はもっと安いと聞いていたのだが」と少し不満顔です。心配されたのは火災です。もし火事でも起きて新幹線を止めてしまったら。国鉄は重要な過失でなければ責任は問わないと約束してくれました。重要な過失というのはまずありえないそうで、そこまで心配してたら何もできませんよと逆に励まされたほどです。こうしてライスセンターは高架橋下に建設されることになり、今年六月十二日起工式が行われ、八月三十日に竣工式を迎えました。

- ③ センターは集落から離れていますが、チリやもみぎらの公害がなくなりまし。
- ④ 将来にわたり地区の農業の中心になり、協業化への道が開けます。逆に問題点もあります。
- ① 初年度の投資額が大きい。四番では総事業費4871万円の内522万円の負担。現在農機具の償還が終わっていない場合その分負担大。このほか2082万円を公庫から借りなければなりません。公庫の償還は十九年間。
- ② 今のところ婦人など余剰労働力が生かせない。
- ③ 人間関係。これはメリットにもなりますが、人間関係で組合にちゅうちよする人が多いのも事実。

### 黒崎町の農業



黒崎町。みごとに区画整理されている

減少する農家にテコ入れ 黒崎町の農業は二つに分けられる。一つは町北部の新潟市や岡地などを消費地とした都市近郊農業で、野菜や施設園芸、球根、切花が主力。もう一つは町農業の主力中部、南部の稲作及び転作による野菜生産などである。 本町は都市化が進むにつれ農家戸数も減少し、昭和55年で743戸である。10年前に比べて228戸も減っている(農業センサス)。この傾向は今後も続き、同時に高齢化も進んでいる。 農地は田が1395ヘクタール、畑が152ヘクタールあり、一戸あたりの農家経営面積は2ヘクタール。農家は専業かわずか40戸でほかは兼業農家である(センサス)。主力作物は米で作付面積1290ヘクタールで収穫量は71200トン(センサス)。今年には総生産高23億1000万円、総販売額約20億円が見込まれている。

### センターは協業方式への第一歩

現在板井四番にライスセンターは二つあり総作付面積64・8ヘクタール中42ヘクタールを担っています。組織率は72%です。残りの17・8ヘクタールは個人農家です。つまり、板井四番では組織化とかなり大きな農家に別れてきたというところで、他の農村部でも農家は組織化が大規模化の二つに分かれると考えられます。

どの転作団地を造る。④地下水(温水)を利用した省エネ温室農業の検討。が主な内容で総事業費は5億8703万円を予定しています。町では新農構の推進を図るためにライスセンターの場合事業費の2%、国県の補助対象外のコンバインに5%の補助をしています。将来的に農業はライスセンターの共同作業方式から、さらに大規模ですべての農作業と田畑の再編成を含めた協業方式へ移行することが考えられます。むろん、簡単にできることではありませんが、ライスセンターはその第一歩なわけです。

米のほかは転作を利用した枝豆生産が急激にのび、昨年から「黒崎茶豆」として、東京、埼玉などへ出荷している。 町では基幹産業である農業の活性化を図るため、①基盤整備と機械施設整備をし土地を有効利用。②農用地の利用集積と集団転作を推進し経営を複合化する。③自立経営農家を中心とした組織化と将来の担い手農家の育成。④農村環境の整備。などを中心に新農構構造改善事業、農村総合モデル事業をはじめ数々の農業事業を施している。 モデル事業では今年度から環境改善センターに着手した。また、農村婦人の意識調査を行った。これらは来号以降で広報で紹介したい。

### 町長の日誌

前回の続き。道路右手は雄大なナイアガラ川、左手は工場地帯でニューヨーク州である。ここまでする途中、カナダ領ナイアガラ川市役所に立ち寄り市長と面会、温かい歓迎を受けた。記念にカナダのバッジを頂いた。日本とカナダの友好親善を祈念した。

### 決妻決一郎

バスはバッファロー空港に到着し、飛行機でニューヨークへ。ニューヨークに着いたのは五月二十三日十五時過ぎ(米時間)。 ニューヨークは合衆国最大の都市で、国際的な大商業地でもある。もともとは金持ちが集り高級住宅街を造つたのに始まる。ハドソン川の河口一帯に位置している。 市街は再開発中である。有名なセントラルパークは歩くと五十キロもある。アメリカはどこに行っ

ても大きい公園があり、大いに参考になった。 国土が大きいからできるのであるが、狭くとも知恵を出して工夫すればなんとかなるのではないかと思う。

リンカーンセンター、コロンビアサークル、ロックフェラーセンター、国連本部ビルなどを見学する。 市内には電柱類は全くなくすべて地下である。建物は高さ制限がなく、摩天楼である。アパートは一、二階が店舗で合理的だ。 三十一日、日程六日目。ホテル

出発のとき、ここはいちばん治安が悪いので、スーツケースは廊下に出さず部屋に置き、ポーターが集めにきたら渡すことなどを言われる。

バスで市内見学。市街は南から北へ伸び、高層建築は昭和六年から出来始めたという。 超高層建築世界貿易センターは一一〇階と一一〇七階のビルである。ここは約八万人の出入りがあると聞き驚く。 ウォール街を見、ニューヨーク湾を遊覧船で周り自由の女神を見る。高さ一二〇メートルで台座だ

けで四〇メートル。百年祭を二年後に控えて現在修理中である。一万八千人の潜水夫で修理は始まったと聞いた。

ホテルで昼食をすませてニューヨーク空港へ。待合中に何が起きたかわからないが、全員移動させられた。あとで聞いたら爆弾を仕掛けられたという。 飛行機で無事にワシントンに着しきつそく市内見学。涼しく気持ちよすが、現地では異状気象と

(続く)